



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

保養事業に思うこと

大橋 宏雄



〈略歴〉
一九七七年生まれ
三重教区中勢一組浄願寺衆徒
「福島のごもたちを三重へ」プロジェクト代表
青少年センター非常勤幹事
大谷派児童教化連盟委員長

二〇一二年から毎年八月のお盆過ぎに、福島県のごもたちの保養事業を行っています。期間は一週間ほどで、桑名別院を拠点に三重県各地に遊びに行きます。希望者には甲状腺の検査も行っています。参加者は保護者も合わせて三〇名〜四〇名ほどです。二〇一一年の福島第一原発事故以降、放射能の影響を受けながら生活している子どもたちに、少しの間でもその影響が少ない時間を過ごしてほしいということがこの事業の目的であり、震災の年に生まれた子どもが成人するまでの二〇年をその期間として活動しています。

願っている人たちの思いに応えなかったというのが、正直な気持ちです。「どうか、福島の子どもたちを三重で受け入れて下さい」と言った、東北の友人に応えなかっただけでした。そのことは活動が始めてから六年の間、折に触れ立ち返ることにあります。

福島県の放射能の影響に関しては、様々な情報や受け止めがあります。「もう心配しなくてよい」という声も、「気を付けた方がよい」という声もあります。保養に出掛け、少しでも福島を離れるという選択をする人は決して多数派ではありません。置かれている状況は同じにもかかわらず、その状況に対する受

け止めの違いが対立や溝を生んでいます。この活動も「福島県での生活は気を付けた方がよい」という意見が前提になりましてから、私たちがその対立や溝を生んでいることになりました。保養で出会った保護者の方々の話を伺っていると、放射能による被ばくの問題だけでなく、そういった人間関係の問題に苦しみ疲れておられるように思います。福島県の友人が「みんな不安なのは同じなんだ。なんでその同じ不安のところで一緒になれないんだろうな」と言っていたのが忘れられません。

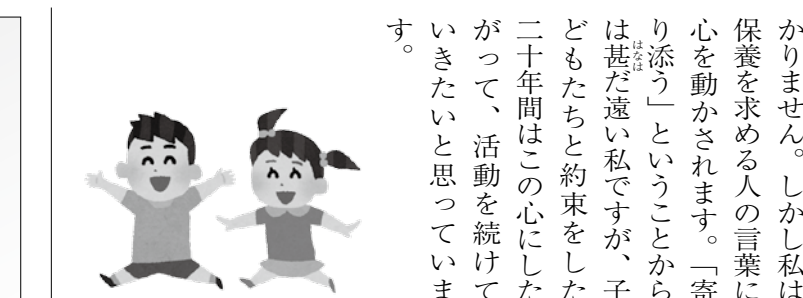
こういつた活動をしていると、「寄り添う」という言葉をよく耳にします。しかし「寄り添う」とは一体どういうことでしょうか。何に寄り添うのでしょうか。宮城頭先生は「愛情とはどこまでも関わるということ。どこまでも相手のあり方に寄り添うということですよ」とおっしゃいます。「相手のあり方に寄り添う」、それは人間には到底成しえないことのように思えます。しかし少なくとも、原発に「賛成」「反対」、「福島は大丈夫だ」「気を付けた方がよい」というような考えを立場にして関わっていくということではないように思えます。

意見を持ち、ある立場をとれば必ず対立を生み、溝をつくりまします。しかし何の意見も持たず、立場もとらず何かを行うことはできません。思い起こされるのは「いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」という宗祖の言葉です。宗祖のおっしゃる「われら」とはいかなる「われら」なのか。私たちに願われているあり方はいかなるあり方なのか。未だ答えはでないままです。この活動は問題意識からではなく、被災地の友人の言葉に心動かされたことから始めたこととです。

意見を持ち、ある立場をとれば必ず対立を生み、溝をつくりまします。しかし何の意見も持たず、立場もとらず何かを行うことはできません。思い起こされるのは「いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」という宗祖の言葉です。宗祖のおっしゃる「われら」とはいかなる「われら」なのか。私たちに願われているあり方はいかなるあり方なのか。未だ答えはでないままです。この活動は問題意識からではなく、被災地の友人の言葉に心動かされたことから始めたこととです。

この会のおかげで、お内仏で毎日正信偈のお勤めが出来るようになりました。そして会員の方の不幸があった時、会員全員お参りし、通夜勤行のあと会員だけで佛説阿弥陀経さまをお勤めさせていただき、誰もが必ず逝く身、悲

かりません。しかし私は保養を求める人の言葉に心を動かされます。「寄り添う」ということから「甚だ遠い私ですが、子どもたちと約束をした二十年間はこの心にしたがって、活動を続けていきたいと思っています。」



新設別院定例法座
「三日のご坊」
ご坊さまは、毎月6回の定例法座(1日・11日・13日・21日・27日・28日)がお勤めされてきましたが、4月より下記の毎月3回にお勤めすることになりました。
「三日のご坊」定例(毎月3日)
午後1時から
「大谷 婦人会」定例(毎月11日)
午後1時から
「親鸞聖人ご命日」定例(毎月28日)
午後1時から
新設された3日は、ご坊別院の開基・嘉念坊善俊上人のご命日です。「三日のご坊」と親しんでいただき、多くの方に足をお運びいただきたいと思います。
※お朝事は、毎朝7時よりお勤めしています。

雑行も棄て、本願に帰す

「とどけよ なむあみだぶつ」

私は、浄土真宗の家に生まれ、小さい頃から母についてお寺によくお参りしていました。近所の家で報恩講が勤まると、大勢の人たちと正信偈のお勤めしました。そして法話の時間には、落語でも聴くようにその話術に吸い込まれていったことを今も鮮明に覚えています。それが私の仏法に出遇った原点だったかもしれません。

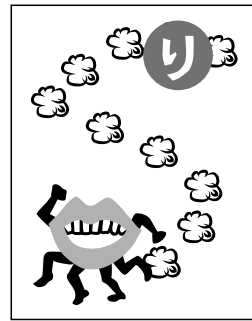
これからは次世代にどう相続していくかが問われています。根気よく声を掛け、時には背中を押してあげること。おかげさまで新しく参加くださる方が増え、相續が少しずつ進んでいる事に、なんとも嬉しく感じる今日この頃です。声に出して、南無阿弥陀仏と称え、私の声、私の耳に聞こえるその幸せをかみしめています。永遠にお念仏の声が届きますように願ひながら。
なんまんたぶつ・なんまんたぶつ...と。
玄興寺門徒 古瀬かよ子

☎テレホン法話(0577)34(2313) ○3月21日〜31日:北條秀樹氏「了泉寺」 ○4月1日〜10日:大泉信吾氏「明善寺」 ○4月11日〜20日:旭野康裕氏「永養寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

家庭で読む

女と男の ナムアマミダブツ②

藤場 芳子



り 理屈言う 口があつたら まず動け

洗濯物をたたむ

洗濯物をたたむほどのことに 人生はあるか 三年かけて そんなことを考えていた

これは詩人・山尾三省の「洗濯物」という詩の書き出しです。洗濯物をたたむということについて私はこんな風に考えたことはありませんでした。ある時、この詩について友人と話をした時のことです。彼は「家事・育児は大事だと思って僕もやっているよ。だけど子どもたちのシャツやパンツ、妻や自分の洗濯物を取り込んでたたむ時、正直に言う」と多少の惨めさや気恥さを感じると言いました。私が「なぜ」と尋ねると、彼は「こんなこと、いい年をした男がすることかなと思うから」と答えました。私も疲れた時にやりたくないことはありませんが、惨めさや気恥さかしさとは違います。それは私が女だからでしょうか。みなさんはどう思いますか。

「名もなき家事」

最近、「名もなき家事」という見出しの新聞記事が目にとまりました。夫婦共働きをしている妻に第一子が生まれたのを機に、三カ月の休みをとったある男性の日々が綴られていました。以前から家事はしてきただつたりだつたけれど、泣き止まない子どもを抱えての家事は想像を超えていたそうです。洗った食器も取り込んだ洗濯物も、棚や引き出しにしまうのがわずらわしくなり、やがて見えてきたのは妻がする「名もなき家事」にあぐらをかいてきた自分の姿だつたと書かれていました。「名もなき家事」とは、掃除や洗濯といったはつきりとした名称がない作業のことです。例えば、食事作りは調理だけではなく、家族の好みや体調を考えて献立を決める、冷蔵庫の中身を確認する、お財布事情を考えて買い物をする、家族が食べる時間を考慮する、明日の朝食のことを考えておかずを取り置きしておく等、無数にあります。

まず話し合い

社会心理が専門で家事労働に詳しい平山亮さんのお話を聞く機会がありました。家事は「誰でもできる仕事」として貶められ、「三食昼寝付き」という言葉はかつて専業主婦を揶揄する言葉として使われてきたと語りました。つまり労働としての価値が認められてこなかったのです。その人が亡くなったたり入院をした時に初めて、自分がどれだけ「名もなき家事」にあぐらをかいてきたかを実感するのです。

今回のカルタの句は「理屈言う口があつたら まず動け」です。まず動けと言われてもあまり家事をし

たことのない人には何をしたらいいかわからないでしょうし、良かれと思つても余計な仕事を増やすことになりかねません。平山さんによれば、「名もなき家事」にどんなことがあるか家族で話し合い、可視化することが大切だそうです。「気が付いた人がやる」では現状は変わらないからです。まずは話し合いが始まるかどうか、家族の関係が問われている気がします。

一緒にいても独り

私はかつて母に「台所にばかりいないで、一緒にテレビをみよう」と言ったことがあります。「そんなに働かなくてもいいよ」というねぎらいのつもりだつたのですが、なぜあの時、私も母と一緒に家事をしなかつたのか、今になってとても悪いことをしたと思います。最近よく耳にする言葉に「ワンオペ育児」があります。ワンオペとはワンオペレーションの略で、仕事も家事も育児もしなければならぬ母親の「ひとり育児」のことです。「お母さんだから」「妻だから」という価値観を必死にこなす孤独な姿が垣間見えます。人間は「独りで生まれて、独りで死ぬ」と『大無量寿経』に書かれています。誰も否定しようのない事実です。でもだからこそ、誰かと共に生きたいと願うのではないのでしょうか。紹介した詩の最後には、洗濯物をたたみながら自分の人生がたたまれていくと書かれています。あまり気を張らずにまず一枚たたむことから始めてみる。その時、あなたはどんな風を感じるでしょうか。

次回は佐賀枝夏文さんの「人生の「こんなこと」「あんなこと」②」です。

春の彼岸会 永代経法要

3月18日から24日 午後1時から勤行・法話 20日(火) 岩佐幾代氏 21日(水) 三島多聞輪番 22日(木) 四衢亮氏 23日(金) 江馬雅人氏 24日(土) 坂上祥司氏 会場 高山別院 仮本堂

高山別院 蓮如忌法要

日時 3月25日(日) 午後1時から お勤め・法話 「後生の一大事」 講師 黒田進氏 (長浜教区満立寺) 会場 高山別院 仮本堂

高山二組若声会 連続公開学習会①

日時 4月12日(木) 午後7時半から 講師 海法龍氏 (東京教区長願寺) 内容 歎異抄第十三章 会場 高山別院 仮本堂 聴講料 500円

初まいり式

日時 5月6日(日) 午前10時から11時 対象 3才以下のお子さま 会場 高山別院 仮本堂 参加費 3000円 (記念品代込) 申込期限 4月20日(金) ※詳細は高山別院またはお手次寺にお問い合わせください。主催 高山一組

御遠忌記念仏具等の指定寄付のお願い

明年5月に飛驒御坊御遠忌750をお迎えするにあたり、御遠忌推進委員会では下記のとおり仏具・備品等の指定寄付をお願いすることになりました。この御遠忌を勝縁として、皆様より尊いご懇念を賜りますよう、ご奨励・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。詳細については高山教務所までお問い合わせください。

記

- 1 寄付募集期間 2018年3月20日(火)～2018年12月28日(金) 2 寄付内容

Table with 4 columns: No., 寄付項目, 説明, 数量, 金額及び寄付口数. Rows include items like 水引, 打敷, 四方卓, 挿鞋, 蘭草履, 本堂パイプ椅子, 本堂ストーブ.

「首都圏在住 飛驒出身門徒のつどい」開催

2月16日(金)～17日(土)にかけて「首都圏在住飛驒出身門徒のつどい」を開催しました。

このつどいは、ふるさと飛驒の地を離れ首都圏にお住まいのご門徒の方にお集まりいただき、首都圏における浄土真宗の拠点である真宗会館で、真宗の教えに触れていただくと同時にふるさととの寺院とご縁をつないでいただきたいという願いから始められました。

今年で3年目の開催となり、2日目の17日は首都圏開教者の報恩講が勤まる事から、地元の方と一緒に御参りをし、お齋を皆でいただきました。

来年の飛驒御坊御遠忌には、ふるさとに帰ってお参りいただくよう呼びかけをしました。



定例法座・法話(午後1時から) ○3月27日(火)…三島多聞輪番 ○3月28日(水)…畑亮徳氏「願徳寺」 ○4月3日(火)…三本昌之氏「蓮徳寺」 ○4月11日(水)…三島多聞輪番